

【執筆者プロフィール】

水野隆道／一九七八年岐阜県生まれ。花園大学大学院文学研究科博士課程満期退学。岐阜県

瑞東寺副住職。

法／長／本名・李忠煥。一九七九年大韓民国のソウル生まれ。大韓仏教曹溪宗海印寺僧伽

大学卒業。花園大学大学院文学研究科仏教学専攻（博士後期課程）在学。

《『楞嚴経』 訳注・教学研究委員会参加者》

野口善敬

小川太龍

廣田宗玄

堀 祥岳（岐阜東教区・安國寺副住職）

本多道隆

丸毛俊宏

《『圓悟心要』 訳注・花園大学国際禅学研究所

『圓悟心要』 研究会参加者》

野口善敬（九州西教区・長性寺住職）

小川太龍（兵庫教区・常楽寺副住職）

桐野祥陽（京都両丹教区・大泉寺住職）

瀧瀬尚純（京阪教区・寒山寺住職）

廣田宗玄（兵庫教区・順心寺住職）

本多道隆（京阪教区・梅松院副住職）

丸毛俊宏（愛知西教区・永弘院住職）

【編集後記】

ここに『臨済宗妙心寺派教学研究紀要』第一三号が、無事発刊の運びとなった。今号は、若手研究者の投稿を得て編纂することができた。まことに喜ばしい限りである。

まず、前号に引き続き、水野隆道師、法長師の二人からは、妙心寺派宗務本所の奨学助成基金より交付された、平成二十六年度妙心寺派花園大学仏教学科研究者助成金による成果を発表して頂いた。前号の「編集後記」でも記したが、この助成金は、臨済禅を通じて花園大学仏教学科教員の学術研究の進展、また若手研究者の育成に寄与することを目的として設けられたものである。

水野師は、花園大学大学院文学研究科博士後期課程を満期退学されたが、引き続き研究に励んでおられ、今回は「有貪と三界説—アビダルマにおける議論から—」と題した論文を発表して頂いた。また法長師は、韓国からの留學生で、花園大学大学院博士後期課程に在学中であり、今回は「太賢の大乗菩薩戒観—『梵網經古述記』を中心として—」という研究を発表して頂いた。なお訳注二篇は前号に引き続き、『圓悟心要』及び『楞嚴經』巻六の輪読の成果で、それぞれ、花園大学国際禅学研究所研究員の瀧瀬尚純師、本派の教学研究委員の一員であり、飛騨高山の陣屋の学芸員である堀祥岳師に担当して頂いた。執筆頂いた諸氏に対し、ここに厚くお礼申し上げたい。

さて、臨済宗各派・黄檗宗では、来たる平成二十八年の宗祖・臨済義玄禅師一一五〇年、ならびに翌平成二十九年の日本臨済宗中興の祖・白隠慧鶴禅師二五〇年の両遠諱にむけ、全宗派をあげて大遠諱事業を立ち上げて取り組んでいる。

臨済禅師は、「塔銘」に「講肆に居し、精しく毘尼を究め、博く經論を讀る（居講肆、精究毘尼、博讀經論）」とあり、また「祖堂集」巻一九「臨済和尚」章にも「夜間に至り、大愚の前に於いて瑜伽論を説き、唯識を譯し、復た問難を申ぶ（至夜間、於大愚前説瑜伽論、譯唯識、復申問難）」とある通り、禅に参ずる以前に、戒律や經論を広く学び、それらに深く通じていたことが知られている。禅が「不立文字」を標榜する仏教であることは言うまでもないが、それは学問に偏向し、執着することを戒めたものであって、祖師たちが学問として仏教を学ばなかった訳では決してない。ましてや教育的水準の上がつている現代にあって、無学の徒が一ヶ寺の住職として務まるはずもないであろう。祖師たちを手本とし、僧堂での修行は当然のこと、さらに専門的に仏教を学び、学識に裏打ちされた禅僧を目指して頂きたい。ひきつづき、宗門内外からのすぐれた研究の、積極的な投稿を切に願う次第である。

末筆ながら、教化センターの佐々木伸隆師・釋泰堂師のお二人には、事務全般の労を煩わせた。深く感謝申し上げます。

なお、今号も諸事情により、発刊が大幅に遅れたことを、深くお詫び申し上げます。

（廣田宗玄）

【電子版『臨濟宗妙心寺派教学研究紀要』執筆要項】

教化センターでは、下記の要領で、「論文」「訳注」「研究ノート」「資料紹介」「書評」などを募集しております。ふるってご投稿ください。

*

《テーマ》

臨濟宗を中心とした禪宗に関するもの。ただし、仏教全般にわたる内容で、宗学に資すると考えられるものについては、これを認める。

《枚数》

四〇〇字詰原稿用紙五〇枚以内を目安とする。ただし、論証の過程で紙幅を更に要する論文や訳注原稿などについては、超過を認める場合もある。

《体裁》

- 本文は日本語とする。
- 縦書きを原則とする。ただし、サンスクリットなどの資料を中心とする場合については、横書きを認める。
- ワードプロソフト（二太郎もしくはWord）で執筆された原稿のみを対象とする。
- 資料を口語訳した場合には、原文を必ず本文中または注に付すこと。
- 正漢字体と常用漢字体のいずれの使用も可とするが、全体もしくは本文や注単位で必ず統一性を持たせること。
- 資料として書き下し文を用いる場合、仮名遣いは新旧任意とする。
- 「今昔文字鏡」などの特殊なソフトウェアを使用した場合は、提出時にその旨を明記すること。

《提出方法》

- ・ テキストファイルのデータとPDF、打ち出し原稿、英文タイトルを提出すること。
- ・ テキストファイルのデータとPDF、及び英文タイトルについては、メールでの送付も可能。 ※詳細については、教化センターにお問い合わせください。

《提出先》

〒六二六―八〇三五 京都市右京区花園妙心寺町六四
妙心寺派宗務本所 教化センター TEL〇七五―四六三―三二二(代)

※封筒の表に「紀要原稿在中」と明記すること。

《締切》

毎年十二月末日（厳守）

《公開》

翌年四月（予定）。妙心寺公式サイト (<http://www.myoshinjior.jp/>) のみでの公開とし、紙媒体での刊行は行わない。

《その他》

- ・ 抜刷の提供は行わない。抜刷を希望する場合は、実費及び送料を執筆者負担とする。
- ・ 投稿原稿は査読を経て、内容や形式の点において、教化センターが不適切であると判断した場合、その掲載をお断りしたり、修正を要請することがある。

※詳細については、教化センターにお問い合わせください。

臨濟宗妙心寺派

教学研究紀要 第十三号

平成二十七年 六月十五日 発行

発行人 栗原正雄

編集 妙心寺派宗務本所教化センター

制作 株式会社石田大成社

発行所 妙心寺派宗務本所教化センター

〒六一六一八〇三五

京都市右京区花園妙心寺町六十四

電話（〇七五）四六三一三二二一代